

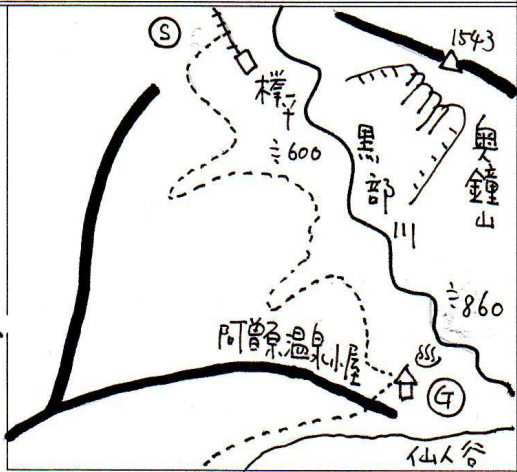
山行報告書

通算山行NO	NO・158S	報告者	加藤 秀子
年 月 日	'99年 8月 7日(土曜日)～ 年 8月10日(火曜日)		
山 行 名	'99 夏山山行 劔岳北方稜線縦走	天 候	8/7～8 快晴
山 名	劔 岳(約2,998m)		
この山のセールスポイント	<b>断崖絶壁が数キロ続く水平歩道・・・</b> <b>言佳でも行けるが 一歩誤れば長陣云落の恐い道</b>		
コース及び タイム	8/7 下土狩 15:00⇒富士 16:15⇒中央高速豊科IC 19:20⇒魚津 20:10 泊 8/8 起床5:00/6:40 富山地方鉄道・魚津駅7:10発 宇奈月駅着8:00 黒部峡谷 鉄道宇奈月駅発 8:17 樺平着 9:37/10:00 ～雪渓ト初12:00 ～阿曾原温泉15:10 泊		

標 高 差	△S 樺平 ～T	=	m	体 力 度	1・2・3・4・⑤・6
	▼T	～G 阿曾原	=	260 m	技 術 度
走 行 距 離	下土狩 ～	=	km	展 望 度	1・2・③・4・5・6

参 加 者	CL	後藤 隆徳	52	ウ～ン。暑くて暑くて・・・。生ビールに救われた。
		大根田元男	62	暑かった。思っていたより遠かった。
		高岡八千代	61	暑くて参った。
		加藤 秀子	50	長い水平歩道には参った。自然の露天風呂は野性にかえる・・・

一日目 蒸し暑く寝苦しい夜が明けた。昨夜遅く魚津に着き駐車場をやっと探して、地元の『直ちゃん』で一杯ひっかけた後、CLはテントに一人で、大根田・高岡は外の方が涼しいと芝生の上で、シュラフを忘れた私は車の中でそれぞれ眠りに就いた。しかし暑くて暑くて眠るどころではない。翌朝、散歩をしている人に『昨夜は酷く暑かったですね』と話かけると、『いや～あれじゃあ 涼しい方ですよ。何時もはこんなもんじゃないですよ』とニッコリ。参った。



朝食後、一人約16Kの重さになったザックを背負い、富山地方鉄道・魚津駅から宇奈月まで乗車。宇奈月から黒部峡谷鉄道のトロッコ電車に乗り換え、北アルプスの立山連峰と、白馬岳・鹿島槍ヶ岳を連ねる後立山連峰との間に、深く刻み込まれた黒部大峡谷を樺平までひた走る。この黒部軌道は、電源開発工事にもない電力会社の専用鉄道として、建設用の資材や作業員輸送として使われていたものが、峡谷の自然を求める人々の強い要望によって営業の認可を受けS46年7月に黒部峡谷鉄道として発足し現在に至っている。

トロッコは1箱50人乗り13両編成であるが、1箱が小さく隙間なくギュウギュウ詰めである。その小さな玩具の様なトロッコが、切り立った山の斜面をくり抜いた線路の上を、クリッククリック走る様は異様で可愛い。あらかし観光客で登山者は私達だけであったが、此処は秘境の温泉場が多く紅葉の時期ともなると溢れんばかりの人で埋まるらしい。流れる景観の、紅葉はさぞかしと思わせる素晴らしい溪谷に、秋にもう一度訪れてみたいナとそんな気がした。

樺平に降り立つと、太陽はド真ん中。陽射しが焼けつくように痛い。今日は暑さとの勝負だなと心する。一服した後、樺平ビジターセンター手前の脇道から通称『しじみ坂』と呼ばれる急登が始まった。山腹のジグザグ道は、日陰も風もなく、サウナにでも入ったように蒸し暑く瞬く間に汗が吹き出してきた。『大根田さん、あれは白馬かなア〜』CLの言葉に、初めて顔をあげると、後方遙か彼方に、堂々たる山容が連なり白馬・鹿島槍の雄姿がのぞく。西方からの少し違った素晴らしい山岳風景に一時、暑さを忘れて同定に聞き耳たてる。

送電線の下迄くると、やっと《旧日電歩道》＝水平歩道（名の通り平な道）となる。一人一人が歩くにやっとの巾道を、木の根や岩角に注意しながら歩く。遙か下方は黒部の川が流れ、溪谷の高度感に足がすくみそうになるが、道はよく整備され慎重に歩けば問題はなさそうだ。が転落すれば助かる見込みはまずないだろう。途中で岩をくり抜いた歩道の天井に、つる下がった茶と白の横縞模様のトックリバチの巣を見つけ、前を横切る猿に出会い楽しみながら歩く。

大きくカーブして志合谷出合。まだ厚い雪をかぶった谷は天然クーラーの風が涼しく、谷の下に作られたトンネルの中から、雪解けの冷たい水が流れていた。夢中でゴクゴクと飲み、汗でクシャクシャの顔や手足を洗う。手が痺れる程冷たい水に『気持ちいいねエ〜』と小休止をしている所へ、先程から抜きつ抜かれつしていた町田の山岳会のメンバー8人がやはり汗だくでやってきた。『全く暑いですね。水が冷たくて気持ちいいですよ』の会話から、労山の仲間と知り、それは・・・それはで名刺交換。賑やかで楽しい町田の山岳会の人達だった。

（注・1）

トンネルの中は狭く真っ暗で、上から雫がポタポタと落ち、足元は水が流れている。傘をその為に持参したが天井が低いのでさす事ができない。ヘッドランプをつけても暗さに目が馴れず、手で壁を触りながら歩く。長いトンネルをやっと抜けると対岸に奥鐘山の障壁の西壁が大迫力で迫ってくる。クライマーがいるかと目を凝らしながら、いっちょ前にルートファイディングを試みた。更に蛇行しながら歩いていくと、オリオ谷を過ぎて垂直の岩を《コ》の字形にえぐりとして作った道に出合う。腰を屈めザックが岩角に引っ掛からないよう気をつけて歩くが、足元は見事な迄の断崖絶壁に、思わずヨロツとしそうだった。

後方には樺平の駅が未だ見えた。もうウンザリする程歩いているのに、未だ出発地が見えるとは・・・ドツと疲れた。まだか、まだかと更に歩いてやっと下りになり150m一気に下がった所に阿曾原温泉はあった。工事現場のような建物だが、電気がひかれ水洗トイレ、缶ビールやジュースの自動販売機、テレビ、そしてジョッキで一杯@800の生ビールがある。グイッと飲む一口。プハーッ！うまーい！下戸の私も思わず一杯飲んでしまった。今日は泊まり客が少なく20畳の部屋を4人で貸し切りだ。おまけに温泉つきである。男性と女性で1時間交替。小屋の直下100m程下った黒部川のすぐ上段に、8畳程の広さに掘り込んだもので単純硫黄泉、無色透明。50℃と少し暑い、黒部川と自然に囲まれて入る露天風呂は解放感があって《おつ》なものだった。

汗を流してサッパリとした後夕食。ハードな一日に、贅沢な一時。満足感を味わいながら、疲れた身体を横たえると直ぐ眠りにはいったらしい。全員グッスリだった。



黒部・下の廊下

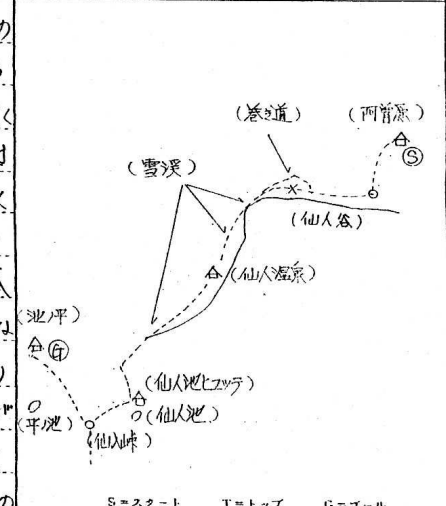


阿曾原から仙人池に向かう

山名	剣岳 (阿曾原 ~ 池の平)		報告者	大根田 元男	
この山のセムポイント	雪渓歩きと仙人池以降の剣岳北方稜線見ながらの展望歩き				
コース及 タイム	8月9日 天候(晴)	起 5:00 出 6:45	7:12	9:30 ~ 10:00	12:35 ~ 12:45
		阿曾原小屋 — 阿曾原峠 — 仙人湯小屋 — 仙人池ヒュッテ — 池の平小屋			
標高差	△S 860 阿曾原	~ 2050 池の平	= 景観 1400 m	体力度	1 2 3 ④ 5 6
	▽T	~ G	= m	技術度	1 2 3 ④ 5 6
走行距離	~ = Km			展望度	1 2 3 4 ⑤ 6

参加者・役割	CL	後藤 隆徳	52	静かな山旅だ				
	SL	大根田 元男	63	着こぎ関口 仙人池からの展望最高				
	記録	高岡 八千代	61	登山中入派の仙人風呂は最高				
	会計	加藤 森子	50	仙人湯はサイー!				
	医療							
	救助							
					会員 4 名・一般 名・全体 4 名			

阿曾原小屋からのジブザクの急坂を登る途中、下の廊下への分岐を通過し阿曾原峠に着くころからは緩やかな登りであつて仙人湯谷に沿って歩くが前日歩いたコースより足場が悪く注意して通らなければならぬ箇所が多い。道端の草花は雨が降っていないので枯れかかつてありしおれた感の花が多くきれいでない。前年度崩壊された道は迂回ルートが出来ていて200mほど登る高巻ルートになっている。下りの仙人谷に入る所に木場がありそれは冷たくおいしい水だった皆んな暑いので頭より水をかぶっていた。谷は雪渓になっている登りであるがアイゼンを付けなくても歩ける。雪上歩きは涼しいが山に入ると風もなく暑い。2回目の雪渓に入り左上に蒸気の立ち昇っているのが見之間もなく仙人湯小屋に着く小屋のすぐ前が露天風呂、女性用は小屋裏にあり入浴のため大休止する。低灌木帯を通過して又雪渓になる登りきった所で昼食を作るの楽しいランチタイムを過ごす。出発時に雪をビニール袋に入れて首筋に当てたりして暑さ対策をして登る。ようやく仙人池ヒュッテに着く仙人池越えに見る剣岳北面はハツ峰を中心とした岩峰群は日本では見ないような景観であり素晴らしい眺めであつた。仙人峠を少し下った所より今日宿泊する池の平小屋が見えた時はこれ暑さとの付き合いも終ると思うとホッとした。小屋に着き早速ビールを飲むが冷たい生ぬるい。大根田・高岡は池の平まで雪を取りに下り小さな池と池塘がありカールの産地になっている所であり剣岳北方稜線を見ながら雪渓上で涼しい一時を過ごしてから雪をバケツにいっぱい取って小屋に持ち帰りビールを冷す。小屋の立衛門風呂に入り汗を流してさっぱりする。2人組のパーティが見えたがアイゼン・ピッケルの装備がなく小屋の人に危険が懸念されると云われて真砂沢ロッジコースに何っか行った。夜は町田岩山のテント泊の方々と交流するこのグループの方も装備不足で表剣岳コースより登るとのことでした。小屋は宿泊者も少なくて空いており一部屋に入れた。明日は難コース登はんになるので早めに寝た。



自然の記述  
 1. 案内板の標示が少なくこのコースを利用して歩く人も少ないようだ  
 2. 人工物は山小屋だけ。山の寒風気が十分味える。  
 3. 雪渓歩きがここ所あつた



早月尾根下降



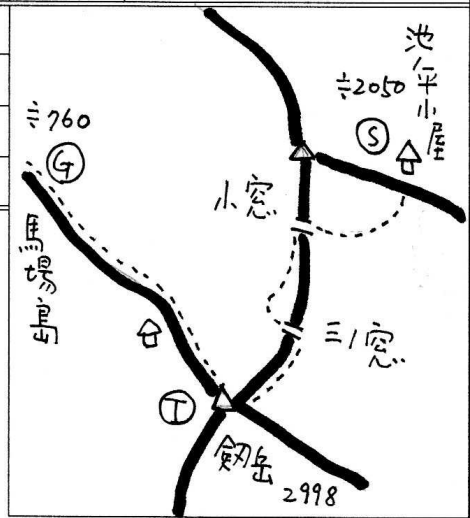
仙人池から八ッ峰



中央右の大きなくびれが、三の窓



山名	劔岳北方稜線		報告者	後藤隆徳	
この山のセールスポイント	<b>雪渓、ガリー、岩稜を越え 早月尾根を下るスーパールート</b>				
8月10日(晴れの曇りの晴れ) コース及びタイム	起床 3:10 ~池ノ平小屋発3:55~小窓雪渓4:55~小窓5:45~小窓ノ王7:35~ 三ノ窓7:50~池ノ谷乗越8:45~劔岳10:10/10:20 ~早月小屋13:00/13:15 ~ 馬場島(家族の森) 15:50 ⇨魚津~糸魚川(ヒスイの湯) ~大町(泊)				
標高差	△池ノ平小屋 m 劔岳 m = 930m	体力度	1・2・3・4・⑤・6		
	▼劔岳 m 馬場島 m = 2220m	技術度	1・2・3・4・⑤・6		
		展望度	1・2・3・4・5・⑥		
CL	後藤隆徳	52	22年振りのチンネ、登れず残念!		
SL	加藤秀子	50	チンネは残念だったが、早月尾根は嬉しい!		
	高岡 八代	61	劔岳はいつもいい思い出を作ってくれる		
	大根田 雄	62	長い、なが〜い早月尾根は疲れた。		
3 日 目	喉を通らないムスビを2ヶ無理矢理押し込む。高知に住むという若い律儀な小屋番は起きてくれた。寝静まった静かなテント場を通り出発。『できれば行きたい』と言っていた単独の沖縄の芳岡さんは結局起きて来なかった。				
	きわどいトラバースを混え小窓雪渓に降り立つと、ようやく夜も明けてきた。積雪が多かった今年の小窓雪渓は、未だスキーが可能な位でまるで氷河そのものだった。雪は硬くガチンガチンで『チンケ』なアイゼンを装備した高岡・加トーは無様な恰好だった。未だ未だ認識が甘い。「身体で覚えるしかない」のだ。				
	花が多い稜線を小窓ノ王に向かう。今朝イヤに暖かいと思ったら、後立山に笠雲が急激に流れる。途中イヤな20mの下降気味の雪渓トラバースがある。落ちれば小窓雪渓まで一直線。躊躇せずザイルを出す。大根田は『こんなとこ、ザイルは要らない』という。分かってない人だ。「安全」は絶対「意地」を張ってはいけない。『常に謙虚』でありたい。小窓ノ王から三ノ窓に下りる頃、完全にガスってきた。				
22年振りの懐かしい三ノ窓に着く。「チンネ」が大きい。テントが2~3張。あの時は左稜線と北条・新村ルートに登った。今回も加トーと「中央チムニー」をやるつもりで登攀具一式を持ち上げた。しかし、悪天候の中「本チャン」をやる程私はもう若くはなかった。「アッサリ」と中止。「あァーチンネよ。チンネ」残念であった。					
昔と全く同じのグズグズの池の谷(いけのたん)ガリーに登る。チンネ側の花が多い。ガスの中、池の谷乗越が見えた。その瞬間大、小の落石が先頭の私と2番手の加トーめが					



けて落ちて来た。『ラクーッ!』叫ぶと同時に左に飛ぶが、後で加トーが『痛い、痛い』と泣いている。『ヤッタカー』と一瞬見るのが恐かった。が、幸い厚手の帽子の上から小かかすめる様に当たっただけなので、大きな「コブ」だけで済んだ。良かった。(これが本当のヨロコブだ)「ホッ」と胸をなで下ろした。本当に怖いラクだった。どうも人為的なラクの様だ。上から青年が降りてきたので正すと、『私が落としました』と正直に答えた。山は必ず下に人がいる事を論じた。

乗越で小休止。此処からは風が強く寒いのでカッパを着る。長次郎谷からヘルメットを持った老若男女が数名通過。チンネを登るのであろう。素人みたいな女性もいた。此処から劔岳までは岩場が多く、右に行ったり左を巻いたりして1時間程で頂上着。雪のない劔は89年9月の柳下君の追悼登山以来であった。ついこの間登った「ボタモチ(煮ても焼いても食えない)3兄弟」(小田・堀合・山本正)が岩陰からニタニタと出てきそうな気がした。頂上では考える事も多かった。

10分後早月尾根を下る。早月はボロボロの岩のルートで、上部は殆どクサリが張ってある。よくもこんな所に作ったものだと感心する。意外だったのは2,600m付近からの花の多さである。最近では雪のある時しか登っていないので「早月の花園」は全く予想外だった。その上、劔沢方面に比べ人っ子一人いない静かな別天地。こんな極端な山も珍しい。結局、早月尾根の「長さに」この自然は守られているのだ。よく国境の緊張地帯は自然が保たれているが、それと似た現象である。途中で珍しく、2羽の雷鳥がニワトリのように「砂あび」をしていた。前劔方面に向かい柳下君に黙禱。

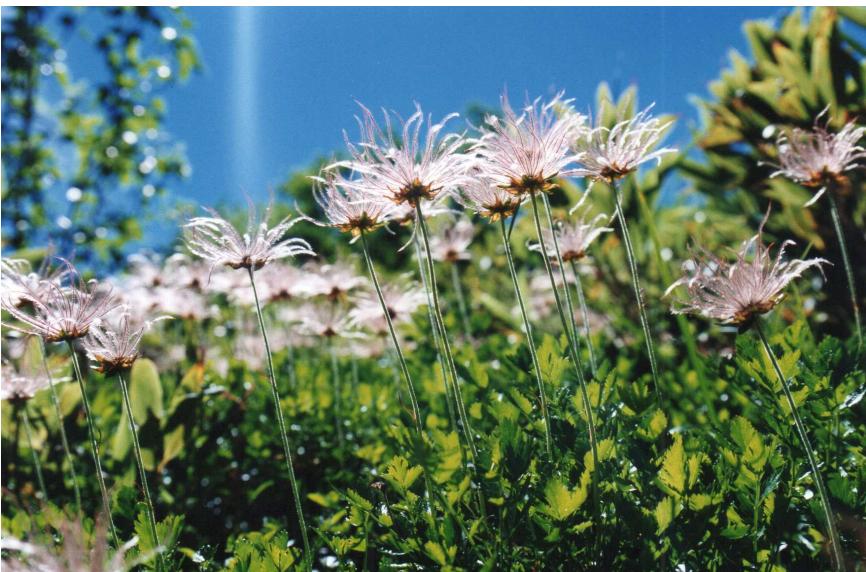
新築中の早月小屋で大休止後、約2200mを下るひたすら長く暑い早月を馬場島目指す。どうも、いつも松尾平からダラダラでイヤだ。馬場島の「試練と憧れ」碑の前で再び手を合わせ「家族の森」でビールを浴びるように飲む。ママが出してくれた「ネマガリダケ」がコリコリ、シコシコとウマイーッ。上市からタクシーを呼び、魚津に再び帰る。途中、糸魚川で入浴。大町で仮眠後、翌日帰静した。







池の谷ガリー





1999年・剣岳頂上



2014年・北方稜線～剣岳頂上

おわり